

第55号 50円

昭和53年 7月25日

内容

世界の中の日本	1
交友館落成を祝う集い	2
祝辞	4
交友館サロン開き	5
第98回大学共同セミナー	6
これからの日本人は	7
千人会	8
交友館落成記念寄付	9
記録映画作り始まる	10
館長日記から	11
利用状況	11

# セミナー・ハウス

## SEMINAR HOUSE NEWS

発行  
財団法人 大学セミナー・ハウス

〈所在地〉  
東京都八王子市下柚木  
(☎192-03)  
電話 0426-76-8511~3  
振替口座 東京 74590番

〈東京事務所〉  
東京都中央区日本橋本町3-3  
三井銀行本町支店ビル5階  
電話 東京 (241) 3961

編集・発行人 飯田宗一郎  
製作 中央公論事業出版

一九五〇年に戦後はじめて日本人グループが渡来した際、アメリカのもつ経済力の大きさに私は圧倒されたが、同時に日本には、敗戦後もなお残っている高い教育水準と勤勉性があることを思い返し、この国が資源と市場を取り戻すならば必ずや立ち直れるという感を深くした。戦後の日本はともかく金を借りて加工品を輸出し稼がなければならず、借金をするのが第一の仕事だったのである。それから九年間ワシントンに滞在した私は、最初の五年は大使館、あとの四年は世界銀行と国際通貨基金で仕事をしていたが、当時の日本はまだ信用が確立されておらず、良い条件で借金するには非常に困難を伴ったのである。

そのご日本にも経済力がつき、いままでも迷惑をかけてきたアジアの国々にたいして貢献する時がやってきた。当時、世界銀行のほかに地域的援助のためのアフリカ開発銀行、米州開発銀行などあったが、まだアジアにできてはいなかった。ちょうどこの頃アジア開発銀行をつくるという話があり、私が座長となった小さな研究会で日本の経済力がいくら増大したからといって、膨大なアジア地域の需要を日本だけで背負うのは無理なことであるから——欧米先進諸国にも協力してもらおうという試案ができた。しかし、日本がイニシアチブをとるよりアジア諸国からの要望を受けて立つほうが望ましいので時期を待っているとの案の定、E C A F E から相談をもちかけられ個人としての専門家による素案づくりにも私も参加することとなった。かつての試案をもと

にはぼ同一の素案ができた。その結果できたアジア開発はヨーロッパから十二ヵ国、そしてカナダ、アメリカ、日本、オーストラリア、ニュージーランドが金を出す側、アジアの開発途上国は金を借りる側として、経済開発の促進、域内協力の助長を目的とする組織である。私は一九六六年の創立の時から、総裁として六年間アジア各地を歩いたが、ここで受けた印象はアジアの一員といえども日本がいかにかアジアのことに疎いかということであった。

「アジアは一つ」という岡倉天心の有名な言葉があるが、現実には決して一つではなく、回教国、仏



### 世界の中の日本

日米欧委員会日本委員長  
前アジア開発銀行総裁

渡辺 武

教国、キリスト教国そして儒教的な国々という多様な集まりを理解するには、実は容易なことではない。しかも一方では明治維新以来わが国は欧米の方ばかり向いてアジア諸国にたいしては、むしろ見下すような態度をとってきた事実がある。こういうわが国がアジア途上国の開発を手伝うのはいわば当然なこと、アジア開発設立の意図もそこにあつたのである。

ところで援助の際に先進国側が往々間違いやすいことは、途上国の事情を顧みないで自分たちの経験や考え方を押し付けようとすることである。開発はともと途上国自身がやるべきことなのだか

ら、教えるより先に学ぶ、そのうえで援助をするという姿勢がここでは大事である。例えばネパールでは、アジア開発の職員が電燈のないホテルに泊まり夜通し蠟燭の灯で報告書を仕上げたことがあつたが、これがネパールの人をたいへん感激させた。援助ということば、やはりボランティア精神を發揮することによつて、はじめて実を結ぶ性質のものである。お蔭で、設立当初は資本金一〇億ドルだったのが今は八七億ドルにもなり、アジア各国から非常に信頼される開発となった。共通の目的をもてばどんなに異なつた背景をもつていても共同して働ける、こう

た。これは日本と北米、E C 諸国の三つの地域から政府の力に拘束されぬ民間人が集まり、一国の利益を越えたい世界共通の問題について話し合つたという委員会である。代表委員は日本人八人、欧米にもそれぞれ八〜一〇人位、九ヵ月に一回の会合、そして三地域からでた報告責任者が共同のレポートをつくり、これを基礎に自由討議する。必ずしも結論を採択することはなく、ある程度のコンセンサスが得られると共同声明を発表し、意見が分かれた場合は議論されたことを公表する。

最近の会合では、南北問題、東西問題、原子力平和利用の問題が議題となつた。なかでも南北問題では、アジア開発の人が作つた案にもとづき米の増産について討議した。アジアは米を主食にする民族が大部分だが、一人当り国民所得はアフリカ以下で飢餓状態も毎年各地に起こつてい。わが国の水田はもうほとんど灌漑されているが、フィリピン、タイは五〇%位、ラオス、ネパールなどは二%にもならない。あとはみな天水まかせで日照りや洪水になるともう大幅の減産である。米は、灌漑によつて増産できることは明らかなので、今後一五年間に五四〇億ドルほどかけると一九九三年までに七四年の倍になる。日本はアジアのスポークスマンとして言うべき立場にあると思ひ、是非やろうと提案すると、これにはみな非常に賛成してくれた。

経済問題もしばしば議論される。フランス、イギリスはこれまで築いた生活が乱されるといって(5頁3段目へつづく)

# 交友館落成を祝う集い

昭和53年5月27日

天候に恵まれなかった今年の5月であったが、待ちに待った交友館落成式は、幸いにも五月晴れの朝を迎え、多摩の丘はまばゆいばかりの新緑につつまれた。

交友館は、既報のとおり、昭和50年11月1日に開館十周年を祝ったとき、学生と真理とを愛する「心」が十周年記念事業として建築を計画させるに至った「二つの施設」のうちの一つである。麒麟麦酒株式会社による寄付金三〇〇万円と、日本船舶振興会補助金一〇四〇万円により、ここに教授や学生たちがセミナーの疲れをいやすサロンが誕生した。

## 記念式典

会場は交友館にふさわしく、緑の中に設けられた。来賓、建築関係者、第98回大学共同セミナー指導教授・学生、地元協力者、利用



交友館正面：聖歌隊と来賓

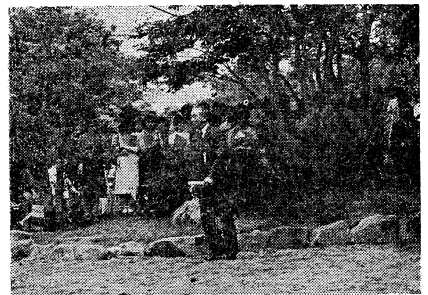


設計者・松崎義徳氏を紹介する

ゼミの教授・学生等約四〇〇名が、この日を目指して美しく完成した交友館前庭と中央庭園を埋めつくした。午前11時、青山学院大学聖歌隊による「大学セミナーハウス讃歌」が木々の合間をぬって流れ、式典は開始された。共同セミナー委員会委員長、岡宏子聖心女子大教授のたくみな司会でプログラムはスムーズに、なごやかに進められた。

まず法人を代表して、川喜田愛郎理事長から、歓びを共にして下さる多くの来賓への感謝と、この交友館建築のために寄せられた各方面からの援助と協力に対する謝辞があった。

次いで、別記のごとくユーモアに満ちた経過報告が、飯田宗一郎館長によってなされた。その中で館長からそれぞれの面で協力された左記の方々を紹介され感謝状の



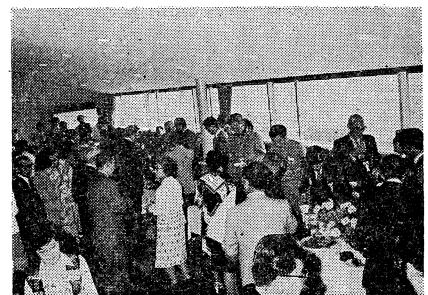
感謝を受ける麒麟麦酒常務・長島真佐雄氏

代りに、参会者一同の温い感謝の拍手が贈られた。

茅 伊登子氏  
茅誠司氏夫人  
設計担当者・U研究室  
主任設計士 松崎 義徳氏  
主任担当者 清水建設株式会社  
常務取締役 内田 武二氏  
工事課長 酒瀬川康夫氏  
財界人後援者 三菱総合研究所  
社長 中島 正樹氏  
社長 長島真佐雄氏  
指定寄付者 麒麟麦酒株式会社  
常務 長島真佐雄氏  
秘書室長 渡部 昭氏  
油絵額寄贈者 東京シューズ  
会長 小俣喜久治氏

ここで、青山学院大学聖歌隊によりH・パーセル曲「ほめうた、うたわん」の荘厳なしらべが会場に流れ、式典の雰囲気は一層もり上がった。同聖歌隊は、佐藤元洋宗教主任の指導による合宿を当ハウスで行っており、利用グループの一つである。

引続いて、別記のように来賓や利用者の方々が形式的でない楽しい祝辞を述べられ、それぞれの立場から交友館の完成を喜んで下さ



祝宴会場：交友館サロン

ついで、飯田館長は、この交友館の運営を通して、利用者へのサービスを直接担当する職員として、主事布施清雄、主任田島澄江両名を紹介し、それぞれ正面入口と勝手口ドアの鍵を授与して、業務の委任をされた。

聖歌隊は再び、歓びをうたう讃美歌を合唱、おごそかにして明るい雰囲気の中で茅誠司氏夫人、伊登子氏と飯田館長の手により、寄付者麒麟麦酒の好意を公けに記憶するため命名された「キリン・サロン」のブラークの除幕がなされた。かくしてキリン・サロンが交友館のイメージの中に誕生し、歓びと感動のうちに式典を終了した。

## 祝宴

式典に引き続き、学士院会員・当法人顧問山内恭彦氏の音頭で一同乾杯し、祝宴に入った。来賓は交友館に、学生たちはようこそ広場に移動、食堂の小沼チーフが腕をふるった心づくしの料理と麒麟麦酒株式会社寄贈によるキリンビ

◇交友館落成式プログラム◇  
5月27日(土)

〈司会〉 聖心女子大学教授 岡 宏子

▽開会音楽(11時) 青山学院大学聖歌隊  
大学セミナーハウス讃歌

▽挨拶 理事長 川喜田愛郎  
館長 飯田宗一郎

▽経過報告 館長 飯田宗一郎  
合唱 青山学院大学聖歌隊  
指揮 唐津 東流  
H・パーセル曲 「ほめうた、うたわん」

▽祝辞 国際基督教大学長 中川 秀恭  
三菱総合研究所 社長 中島 正樹  
東京大学教授 土居 健郎  
E.L.E.C嘱託講師 M.E.ワークマン

▽東京大学教授 芳賀 徹  
学習院大学教授 江沢 洋  
一橋大学教授 竹内 啓一

▽交友館職員紹介 主事 布施 清雄  
主任 田島 澄江  
茅誠司氏夫人 茅 伊登子

▽祝宴(12時) 乾杯 日本学士院会員 山内 恭彦

▽記念講演(13時30分) 「これからの日本人とは」  
京都大学教授 広中 平祐

▽お茶の会(15時30分) 野点 表千家師範 矢内 宗察  
門下生



除幕式：手前は茅夫人

●経過報告

館長 飯田宗一郎

交友館が落成し感慨無量であります。今から一七年前、このあたりは一面のすきすきの丘でありましたが、ここで地鎮祭を行った時のことを思い出します。その時、多忙のため欠席された東大総長茅誠司先生に代って伊登子夫人が出席されました。その夫人が今日もここに覚えてあります。うれしいことです。

そして一四年前に、当ハウスは開館しました。そのときから今まで一貫して設計を担当されたのが早稲田大学の吉阪研究室であり、その主任研究員松崎義徳氏であります。

そして、この独特の設計に基づいて工事を担当されたのが清水建設株式会社であります。この両者がマスタープランどおり建築を進められたことに感謝し、感謝状の代りに皆さんの温い拍手をお願いしたいと思ひます。

「仏作って魂入れず」という言葉がありますが、大学セミナー・ハウスには、創立時から魂は出来ていたと思ひます。むしろ、仏を

イル、キリンレモンで歓談の時を過ごした。

■記念講演

午後一時三分より、京都大学教授広中平祐氏の記念講演が、式典に引きつづいて岡宏子氏の司会で行われた。講堂は三〇〇人を超える聴衆で満員となり、「これからの日本人とは」と題する約二時間に及ぶ講演に熱心に耳を傾け

作ることを長い間願っていたわけでありました。

実業家は利益をあげ、儲けてもらわねばならないが、その利益を社会に還元していただき、セミナー・ハウスに寄付して下さいというところは意義深いことです。そして尊敬すべきことです。

私はこのように思い、麒麟麦酒株式会社社長の佐藤保三郎氏にお会いしたのですが、これには仲人役をとられた方がおられるのです。後に祝辞をいただく三菱総合研究所社長中島正樹氏です。心からなる感謝を両氏に捧げたいと思ひます。そして、この場所に麒麟麦酒株式会社から常務取締役長島真佐雄氏、秘書室長渡部昭氏が代表してご出席いただいておりますので皆さんにご紹介します。いかに我々が喜んでゐるか、そしてどんなに感謝しているかを拍手をもって表わして頂きたい。

さらに、プログラムにもあるとおり、いろいろの方々から、この庭園のために、ご寄贈をいただきました。中央庭園のシンボルとして、清水建設は石積みの九重の塔を寄贈されました。

もう一人、心からこの交友館の

た。

広中氏は、現代のわれわれが迎えていく変動の時代は、数学的に見ていくと、ダイナミカル・システムとして非常に面白い、と前置きして、転換期の日本経済、テクノロジーの進歩の加速化等々の問題に触れて、ものの見方に言及された。(要旨は7頁に別掲)

■お茶の会

完成を待ちこがれ、サロン開きのお祝いにフィリピン風の風景油絵を寄贈して下さいた東京シューズ株式会社社長小俣喜久治氏をご紹介したいと思います。長年にわたる氏の友情の表われです。

多くの人びとのお祝いの心を記念として、長く残すつために、ここに一つの石を備えつけました。これは筑波の石であり、私は「スピーカーズストーン」と名付けたいと思ひます。

利用されるゼミ・グループや学会のとき、ここに立って大いに演説をしてほしい。そして腕力ではなく、言論をもって、スピーカーここからひきずりおろすような討論を交わしてほしいと思ひます。

こは、文字どおりセミナー・ハウスの「プラザ」として、いかに人が集まることによつて真の楽しみが得られるかを体験する場としてほしい。ここにいる第98回共同セミナー参加の二七大学一〇名の学生とゼミで来ておられる学生たちが、諸先輩に続いて、次の大学セミナー・ハウスの生活をもエンジョイしていただきたい。

二時間に及ぶ記念講演のあとは再び交友館と前庭に場を移し、交友館担当職員の入れたコーヒーをおいしくいただいた。

庭園では、表千家矢内宗紫師範の指導のもと、門下生、相模女子大学の学生二〇名による野点が優雅な光彩を加えられた。この日のために、受付その他の手伝いに学生年輪の会会員有志二〇名が奉仕して下さいたことを特記しておきたい。

【主な来賓】 (敬称略順不同)

山内恭彦、安嶋弥夫妻、村山松雄、松田武彦、M・E・ワークマン、広中平祐、中川秀恭、鈴木皇、十代田知三、都留春夫、友部直、中島正樹、芳賀徹、島田依史子、山代昌希、金田品二、長島真佐雄、渡部昭、松崎義徳、内田武二、高橋芳雄、村越善男、梅醇、矢内宗紫、佐藤元洋、井原康正夫妻、今村久明、宇野重昭夫妻、江沢洋、岡宏子、小俣喜久治、茅伊登子、大野大、土居健郎夫妻、西田亀久夫、羽田三郎、今井義夫、岩崎代志治、岡本栄一、釜沼善一、河西

達郎、栗田見瑞、白神俊彦、久保三男、柴垣和三雄、寿岳潤、土方保夫妻、小林甫  
交友館落成祝い寄贈品  
○洋式茶器(一〇〇人分)  
日本陶器窯殿

○九重の塔  
清水建設窯殿

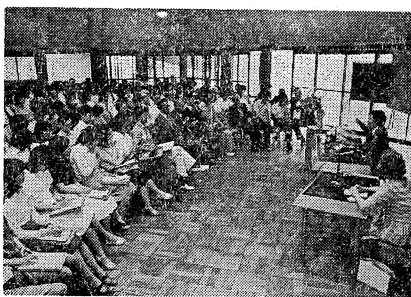
○油絵額  
東京シューズ(株)  
会長 小俣喜久治殿

○花瓶(万葉草花)  
岩尾磁器工業窯殿

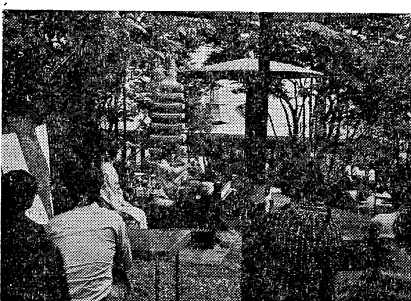
○記念樹  
やまもも  
かや  
まてばしい  
早稲田大学殿  
慶応義塾大学殿

順天堂大学付属病院殿  
第98回大学共同セミナー殿  
山つばき  
学習院大学英文学会殿  
交友館落成式参会者殿  
○パーベキュー・コーナー  
(煉瓦積み)

東京八王子ロータリークラブ、東京八王子西ロータリークラブ有志殿



広中平祐博士の記念講演(講堂)



野点と九重の塔(中央庭園)

# 祝辞

△協力会員校を代表して△  
国際基督教大学学長

中川 秀 恭



協力会員校を代表し、交友館の落成をお祝い申し上げます。今日の落成式の出席者の顔ぶれを見ると、それがそのまま、この大学セミナー・ハウスの歴史と現状を反映していると思います。

それぞれの大学で、所属教授の指導により、学生が人間形成につとめることが、各大学の目標でもあり、理想でもあるが、多くの大学の学生が一堂に集まり、他の大学の教授方の指導も受け、大学の枠をこえて交流するということは、従来の大学教育の中になかったことであります。

この大学セミナー・ハウスの発展と繁栄は、その必要性を明らかに示しています。おそらく世界の国々をみても、このようなセミナー・ハウスをもち、諸大学の教授・学生が会するというところは少ないでしょう。世界における一つの事例として価値があると思います。交友館の完成により、将来ますますセミナー・ハウスが、その機能を發揮され、今までの歴史の発展を将来も継続されることを願って祝辞といたします。

△後援者として△

三菱総合研究所社長  
中島 正 樹

私は心から飯田さんを尊敬しています。一〇年前からたびたびここをおたずねして、セミナー・ハウスの仕事が、極めて高い価値をもつものであることを身にしみ感じていた私は、麒麟麦酒の佐藤君(社長)に、「こういうすばらしいことをしている人がいるので応援してほしい」と依頼しました。氏は「初めて聞いたが、一度調べてみよう」といわれ、その後、副社長らが、ここに来て、申込額を一円もけずらずにお受けしたわけです。

大学セミナー・ハウスは、日本の教育史、文化史において、非常に高い位置を占めていると思います。ここで学んだ学生たちが、将来の日本と世界に貢献されるであろうことを思えば、決して言いすぎではないでしょう。

国際社会の中の日本人の問題点は、International Minded が無いと言われ、これは島国という日本の地理的・歴史的事情によるものだと思いますが、ここで思いきって世界的な国際精神を高める努力が必要であると思ひます。私も、「人類のために日本人は何をなすべきか」という構想を打ち出し、グローバル・インフラストラクチャー・ファンドと言わなければならない。



金として、五、〇〇〇億ドル程今世紀中に世界で集めることを訴えています。すでに新聞などにも出ています。すでにより大規模な戦争がなくなり、世界は不景気になっていますが、こういうときにこそ、平和建設のために世界の力を結集したいものです。

この館は、日本の将来にとって高い位置を占める仕事であり、三菱系の麒麟麦酒のご協力で、いささかお役に立てるならば、この上ない喜びであります。

若い人びとがここで学び、民族の国際的責任を感じてくれることを心から期待いたします。

△協力教授として△

東京大学教授  
土居 健 郎



本日は、交友館の落成式にお招きいただき、うれしく思います。私は、ハウスのご依頼で過去二回ほどお手伝いしたことがありますが、その後、忙しくなつて来れず、数年ぶりに参りました。私は精神科医で、しかも新聞にも出た、問題の東大精神科医であります。

精神科医というのは、心の病を問題にするのが仕事ですが、大学の病も何とかしなければならぬわけですね、最近ではクササしてもいいです。病というものはうつるもので、医者も患者らしくなる。私は今日は自分の精神衛生のためにこ

こに来た次第です。

おそらく、このセミナー・ハウスに来る人は、みんな気分がサッパリすると思います。その目的のために、多くの人びとがここに来て、交友館を利用し、日本の歴史に足跡を残してほしいと思ひます。

△共同セミナー  
指導教授として△

東京大学教授 芳 賀 徹



交友館落成記念セミナーとして私どもは、第98回共同セミナーを「日常生活」という主題で開催しています。

この日常生活で一番大切なことは、飲むことであり、食べることであります。ここに、そのための交友館が落成したことを、およろこび申し上げます。

私は十数年前から、一〇回以上ここでのお世話になっております。この立派な施設に、さらに交友館が出来て、ますます利用者には喜ばれるものになったと思ひます。

宮本常一先生のご講演に、「日本の農家には、縁側というものが有り、それは仕事場でもあり、コミュニケーションの場でもあった」というお言葉があり、興味深く拝聴したのであります。私は「交友館」がセミナー・ハウスの縁側であつてほしいと思ひます。私は今回の共同セミナーで、俳

諧の中から日常生活を見るセクシオンをしていますので、一句をと思ひます。

風薫る歌と笑いのキリン亭  
また参加学生の中にイタリア人の学生もおりますので、  
風薫るローマの美人もキリン亭

△利用者の一人として△

ELEC 嘱託講師  
M・E・ワークマン



私は一年半前に、英語教育のため日本に来ました。それ以来、三度このセミナー・ハウスでELECの主催する高校英語教師講習の講師をつとめました。全国から集る実に熱心で紳士的な英語教師たちと親しくなれたのは飯田先生のおかげです。飯田さんは、常に親切で学問熱心であります。この8月に四たびこの多摩の森に戻つてくるのが今から楽しみです。

この山の中は夏でも涼しく、あぶらぎがジージョと鳴いています。私はセミナーの期間中は、いつも先生たちに、英語をあぶらぎみのように話すことをすすめています。

交友館のおかげで、今まで以上に楽しく、雑談したり、くつろいだり、長い夏の夜のビールなどで気分を転換することが出来るでしょう。

では、交友館で、年々々々おめにかかりましょう。

### ◆オープン・ハウスⅡ交友館サロン開き

地元在住の千人会員、地元自治体関係者、二つのロータリークラブの会員等をお招きして、サロン開きが、翌28日(日)午後3時から交友館で開催された。

海老沢総務部長の司会で、まず飯田館長から、次のような挨拶があった。

「ご承知のとおり、大学セミナー・ハウスは、大学共同体となることを目指して開館したのが昭和40年で、すでに一三年の歴史をつづって来ました。もう、このセミナー・ハウスは八王子に定着し、市民権を獲得した八王子セミナー・ハウスになりました。

私が初めてこの多摩の丘に立ちましたのは、昭和36年11月16日でした。それから由木村役場をおたずねし、村長であられた今日ここにおられる石井栄治さんに度々おめにかかるとなりました。農地の一部を転用する必要から農業委員会のご協力もいただき、



地元の人々との交歓

石井竹松さんなどにもお世話になりました。また昭和40年11月の落成式には八王子市後援会から中央庭園を寄付していただきましたが、その時の世話役が、ここに出席の後藤一市長さんで、当時は教育長としておられました。

今まで、勉強と宿泊のための施設だけでしたが、利用する教授、学生が、くつろいで話し、交歓する場所がなかったのです。ここに交友館が立派に完成しましたので、八王子に住む皆さんも、利用されるよう希望いたします。

ついで、八王子市長後藤聰一氏、八王子市内の二つのロータリークラブを代表して、東京八王子西ロータリークラブ会長千野熊男氏、八王子市議会議員・旧由木村村長石井栄治氏がそれぞれのお立場より祝辞を述べ、大学セミナー・ハウスを今日の隆盛に導いた飯田館長の手腕を礼讃するとともに、今後出来るかぎりの協力を惜しまないとの約束をされた。

さらに、出席者の中から、成城大学の野口武徳教授が、共同セミナー指導教授の立場から、さらに八王子市民として、セミナー・ハウスの存在と、発展の歴史が、いかに日本の大学教育に大きな貢献をしているかを強調された。また、表千家の茶人、千人会員の鮎川宗藤先生が、自分の人生に大きな影響を与えた飯田館長との出会いと、交友館の落成によって、大学セミナー・ハウスが、若者たち

の教育に一層の力を發揮してほしいとのお話があった。約一〇〇名の参加者は、飲み、かつ語り、なごやかなサロン風景をくりひろげた。食堂特製の料理と麒麟麦酒寄贈のビールで祝いと飲びの集いは夕方まで続いた。

帰途、参加者たちは、前日に引つづき奉仕をされた矢内宗紫師範門下生による野点に招かれた。茶席の緋毛氈が緑の中でひとときわ鮮やかであった。

【主な来賓】 後藤聰一、千野熊男、石井栄治、桑田又蔵、石井竹松、石渡照久、伊藤仲治、熊田陽一郎、栗原清吉、清水住良、寿岳潤、野口武徳夫妻、鮎川宗藤、中村英雄、橋本純男、瀬黒幸美、吉田裕、横尾広光(敬称略)

### 第100回大学共同セミナー

21世紀に向かってー学問と人間の問題ー  
期日 昭和53年10月7～10日  
△主題講演Ⅴ

- I 科学と社会 伏見康治氏 日本学術会議会長
- II 国際関係の政治・経済学 亜細亜大学教授 板垣與一氏
- III 文学にとっての未来 東京大学教授 佐伯彰一氏
- IV 物質から人間へ 慶応義塾大学教授 渡辺 格氏
- △運営委員▽ 岡 宏子氏 聖心女子大学教授  
野田春彦氏 東京大学教授  
荒川幾男氏 東京経済大学教授  
10月8日(日)午前12時より  
△一〇〇回記念パーティ▽

### 《乾杯に立って》

学士院会員・東京大学名誉教授 山内 恭彦

私は乾杯の音頭だけと思って来たのですが、用意が出来るまで一言申し上げます。

このセミナー・ハウスの美しいキャンパスで一番殺風景な所にこのような建物を建てようという構想を、私は前理事長、正田建次郎氏から聞きました。正田さんは有名な数学者ですが、私とは数学の友人ではありません。「野牛会」というのに入れというので、何の会かと聞くと、「ノウエウ会」と読むのだというわけで、飲む会ならと入会したわけです。



(1頁よりつづく)

日本の輸入制限を非難するが、わが国の輸出の伸びは日本人自身の努力によって得たもの。ブドウ酒を飲みながら二時間もかけて昼食をするフランス人や、午後のティータイムを認めないとストライキをやると言うイギリス人に比べるとうどんをすすってはずぐまた仕事に励むという日本人の経済力が延びるのは当然なことだ。経済力の強いアメリカ、ドイツ、日本は、やはり世界の標準からみるとよく働く国民なのだ。日本が戦後の荒廃から立ち直って今日にまでなったのも、国民が一生懸命働いた結果にはかならない。

酒の功罪については、いろいろ言われているが、飯田館長はクリスタンなので、酒は好まない。もつとも、キリストは、ブドウ酒が好きだったと思う。ともかく、酒というのは、人間同士の障壁をとりぞくのは良いものではない。今の世の中は、人間が孤立しすぎると、心の交流をやりにくくしていると思います。酒は自他の区別をとりのぞいて、心が通じあうわけで、昔から宗教儀式に酒が使われるのも、そのためではないかと思えます。ここは都心から離れているので、車で来る人が多いが、幸に宿泊設備があるので、交友館で飲んであやしくなったら泊ってほしいと思います。

正田さんの良い思いつきを偲び飯田館長の有能なる手腕を讃美し、あわせて、みんなが楽しく飲んで、セミナー・ハウスの活動を一きわ盛んにするように祈って、乾杯をしたいと思います。

もとより五〇年代と違って、現在の世界は非常に多文化化している。共産圏内部の対立、アメリカの地位の相対的低下、途上国や産油国の擡頭などによって、これまでにない複雑な様相を呈している。こういう状況で日本が大いに関わりを深めなければならないのは、一方においてアジア各国であり他方において経済体質を同じくする欧米諸国である。私は幸いその双方と関わる機縁をもったが、これらの国々との対話をすすめる相互理解を深めることだ。今後ますます重要になることだろう。

(第5回国際学生セミナー「文化接触と日本」のゲスト講演より/文責編集者)

# 第98回大学共同セミナー(交友館落成記念)

## 主題—日常生活—そのルーツと展望

—社会・文化・パーソナリティ—

期日—昭和53年5月26〜28日

### △記念講演△

これからの日本人は

京都大学教授 広中平祐氏

### △全体講義△

生活と教育

日本観光文化研究所所長 宮本常一氏

### △セクシオン演習△

A 口腹の文藝・幸福の文学—俳諧における日常生活—

東京大学教授 芳賀 徹氏

B 日常生活の諸相—私と他者たち—

慶応義塾大学教授 山岸 健氏

C 生活時間からみた日本人の日常

東京工業大学助教 原 芳男氏

D 生活の水準と構造—労働と消費の接点、休養・娯楽・教養等をも含めて—

慶応義塾大学教授 中鉢正美氏

E 人類学・行動学の立場からする日常生活の点検

立教大学教授 香原志勢氏

△運営委員△

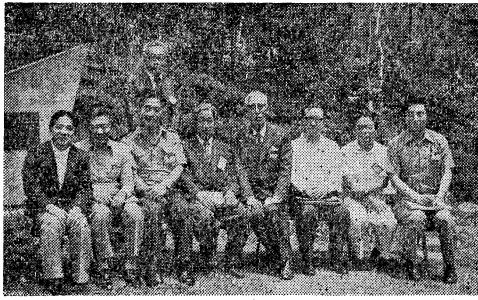
東京工業大学助教 谷口汎邦氏

国際基督教大学教授 勝見允行氏

慶応義塾大学教授 山岸 健氏

△参加学生△106名(内女子64名)

津田塾大(25)、東工大、早大(各11)、慶大(8)、東大(7)、東女大(6)、共立女大(4)、東外大、日本女大、立教大(各3)、筑波大、お茶の水女大、横浜国大、上智大、成蹊大、中大、武蔵大、青山学院女短大(各2)、埼玉大、東農工大、一橋大、名古屋大、学習院大、成城大、明学大、武蔵野音大、共立女短大(各1) 合計27校



右より芳賀、原、山岸、飯田、宮本、香原、中鉢、谷口の諸氏

◆◆◆  
新築の交友館は、セミナー・ハウスに新しい出会いと語らいの場をもたらししたが、このような場は本来の日常生活にこそ、なくてはならないものであったはずである。この落成記念にもっとも相応

しいテーマとして「日常生活」がとりあげられることに決まったのは昨年11月の共同セミナー委員会の席上においてである。以来、発案者の山岸氏に谷口、勝見の両氏が加わり、約半年間にわたる再三の協議を経た結果、飯田館長を含む企画室の人選も効を奏して実現したのがこのセミナーである。日常生活とは、人間存在のあらゆる局面を問題化する包括的テーマであるが、これまで総合的な研究対象として扱われることが少なく、社会学の分野でも問題化したのはごく最近のことであるとすれば、これは画期的なセミナーであったといつてよいであろう。

冒頭のシンポジウムでは、日常生活が今日なぜ重要な問題として提起されるか、さまざまな学問的アプローチによって問題の相貌がどう変わるかなど、セミナー全体の見通しと多角的な分析が与えられ討議に臨む参加者の意欲をかきたてた。つづくセクシオン演習では、まずAセクシオンが芭蕉から万太郎にいたる俳諧によりながら近代日本の食生活の推移を検討すれば、Cでは生活時間の国際比較によって日本人の生活時間の在り方を分析する。他方、Dでは、市場における商品としての労働力が明治以後の経済変動のなかでどのような生活構造の変化を示してきたかなどを問題にすると、Eセクシオンは人類学、行動学の見地から衣食住の物的生活によって人間の

身体的能力、例えば食性や寝相や表情がどんな変遷をたどってきたかなど興味深い問題を扱った。そしてもっとも人数が多かったBでは、他者との出会いと関わりが複雑に入り組んでいる日常生活にあって、われわれはいかにアイデンティティを見出すことができるかという、衣食住とはまた違った次元での課題に取り組んだ。三日目、学生自身がすすめる全体集会でこれらの討議が報告され、指導教授のコメントを最後に、実りある三日間の討論を終えた。附記しておかなければならないのは運営委員の努力である。企画の段もさることながら、期間中、谷口氏は自らスライドを使用して意識調査を発表するなど勝見氏とともに終始セミナー全体の運営に気を配られた。また共同セミナー委員の早大教授村田勝彦氏がオブザーバーとして三日間参加された。

学際を本領とする共同セミナーのことであるから、当初から出来るだけ多くの分野でセミナーを構成しようとしたが、結果的に上記に配列された民族学、比較文学、社会学、社会学、社会政策そして人類学のそれぞれ第一線で活躍している講師陣を招くことによつて、内容面でも大きな成功を収めることができた。なかでも、日本人の生活史をたどる上に欠くことのできない柳田国男の業績を受け継ぐ宮本常一氏の全体講義は、日本人の生活と教育の本来のルーツを論題として、各セクシオンの討議内容に見事に結びついた話題が提供された。

特異なテーマに学生がどのような反応を示すか興味深いところであったが、定員を越える一〇余

名からの応募があり、二七校のうち津田塾大が約四分の一を占めるなど、女子の参加が目立つセミナーとなった。文科系、社会系、理科系の専攻別参加状況もほぼ均等に配分され、三、四年と院生を合わせると高学年が八〇%にもなるセミナーであったことは、卒論など研究テーマに関連づけた応募理由が多かったことから、学生が興味本位に参加したのではなかつたことを裏書きしている。とくに半数もの応募者がBセクシオンに集中したことは、日常生活におけるアイデンティティを希求している学生の関心の所在を知ろうえに参考となるところである。

二日目の野外における交友館落成記念行事は、このセミナーの特別プログラムであった。乾杯にはじまる交流は、三十数大学の学生たちが飲み食いするといろややかなキャンパス風景をつくりだし、風薫る多摩の丘を一層いきいきとさせていた。続く広中平祐氏の記念講演には、セミナー参加者、在泊者、式典参加者など約三〇〇人が講堂をうずめつくし、時に笑いを誘う氏の講演は、自在な着想を縦横に駆使して日本人のあるべき姿、あるべき教育など多岐にわ

■記念講演要旨

これからの日本人は

京都大学教授 広中平祐

物事には本体がある。一方ではそれを表現するということがある。どちらに価値を認めるかによって見方が違ってくる。数学における表現とは抽象群を空間に作用させ、空間の回転として表現し、その結果を見て理解することである。representationとかrealizationとは、本体とは大分はずれていても、そこに表示されている。その中で、例えば人物評価にしても、日本と米国はどちらも学歴主義であるが、日本は「東大出」という本体論をとり、米国は資格を重視することで、出発点では同様であった。その後は実績主義をとる。日本も今後は素材としての人物評価だけでなく実績評価に動いていくだろう。つまり見えない部分と見える部分のどちらも生かしていく知恵が要求されるだろう。数学と言わず一般の自然科学の歴史を見ると、人間はいかに動くものに興味を示したかを知ること



講演する広中博士

が出来る。変化に対する願望(恐怖)が自然科学を発展させる原動力になった。例えば、ニュートンは万有引力の法則によって、運動論を根本から作り直した。ニュートン力学を数学的に説明するため微分学という概念を作った。「定数関数を微分すると0になる」ということは、あまりにも具体的な要素がたくさんありすぎて、背後にある根本原理を見ることがむずかしい現象でも、具体的なものが消えて最後に残ったものを本質としてとらえることができる。法則という意味では数学的概念がはつきりしている。そこで、人間が動くものに関心を持っていくということは、一つには、人間は予測したいという願望があることを意味している。予測するということ、①法則を見分ける(見つけることができれば微分方程式がたつ)、②境界条件および初期条件を加味して微分方程式を解く、ことである。予測がうまくいかない現象を数学ではキヤタストロフィーと呼ぶ。分岐キヤタストロフィーの現象とは、初期条件が少し異なっても、予想はあまり狂わないですむだろう、という考え方が否定された場合である。出発点でのほんの少しの誤差が、最後はとり返しのつかないものになってしまう。ひと頃のトレットペーパー騒動も、経済現象のスペキュレーションの結果で

ある。しかし、人間は賢いので、「初心にかえれ」という知恵もっている。一方、プラスからマイナスへひっくりかえる反転キヤタストロフィーという現象がある。失敗は成功のもと、というように逆行がよい結果を生むことがある。

最後に、楽天的にすぎるとも知れないが、人間はすばらしいものを持っている、ということ締めくくりにして申しのべたい。人間の脳の寛容性がそれである。不連続を連続に見たり、違ったものの中から共通性を見抜いたり、覚えたものを適当に変形したり忘れたものを見る能力を持っている。人間の脳が、コンピュータでなく人間の脳である以上、必ずある寛容性を、よい形で伸ばすことが大事である。同時に、現代のように価値観の多様化が行動原理の多様化を生む時代、小さな変動がたえず出てくる時代は、見通しがきかない。21世紀について種々の極端な推論が考えられるが、決定的な結論はどうしても見つからない。日本は、欧米諸国が四〇〇年かけて作り上げたものを一〇〇年でやっつけた。欧米の自然科学の発展をみると、出発点では非常にinter-disciplinaryであった。日本は出発点からセクションをつくって猛進した。しかし、お手下がある時には有効であったかもしれないが、方向性が明確でない時期には、試行錯誤の上手な人が力を出してくる。学問の面で、inter-disciplinaryなものの見方が特に必要になってくるだろう。

(文責・編集者)

✓たる独特の日本人論・未来論であった。

最終日、送別昼食会の席上では谷口氏の提案した「日常生活を一言で表現せよ」との課題に応募した選考結果が発表され、選ばれた一〇名の学生に運営委員をはじめ指導教授から提供された一〇冊の著書が贈られた。そのうちの幾つかをここにあげてみる。

◇◇◇日常生活とは?◇◇◇

生きるための繰り返しの四苦八苦/メロン切る妹と今朝も卓に着く/つかんでもつかんでも、手の間からすり抜けていく熱い砂である/日常生活は自分の顔をつくる。ある時鏡を見てハタと気づくもの。

当選者の氏名と贈呈された書名は次の通りである。

- ◆石渡広一(東工大)、井上利丸(慶大)、高木恵美子(共立女短大)、谷知江子(津田塾大)、中村晃子(学習院大)、宮岡等(慶大)、三輪伸隆(早大)、好井裕明(東大)、吉岡麻子(津田塾大)、鷲巢比夜子(東外大)

◆現代日本の生活体系(提供者以下同一中鉢)、「大君の使節」、「優しい旅びと」渡辺華山(芳賀)、「人間という名の動物」、「人類生物学入門(香原)」、「アジア留学生と日本(原)」、「日常生活の社会学」、「レオナルド・ダビンチ考」(山岸)、「適正規模論」、「不確実性の時代」(谷口)

なお、セミナー終了後、指導者のひとり芳賀徹氏は、6月7日付サンケイ新聞「直言」欄に「日常生活」と題して次のような一文を寄せておられる。

◇◇◇

「日常生活」が教師六人がかりでの共同セミナーのテーマとなるということ自体、少なくとも教師側にはある種の感慨をおぼえさせる。十年前の大学紛争当時、全共闘系の学生が口を開けば唱えたのが、「平常性からの脱却」との言葉だったからである。そのお題目を唱えながらも、彼らは日に何回か米の飯やラーメンを食い、電車に乗って封鎖に通った点で、実は半歩も平常性の網の目からぬけてはいなかったことになる。一瞬、飛躍したと錯覚しても、また吸いよせられるように落下せざるをえぬ大地の地べた。自分のはずでありながら、自分一人ではどうにもならぬ歴史のしがらみの結節点。

日常性とか日常生活とは、そんなお釈迦さまの手のひらのようなものだと、ようやくさとって、あきらめ半分そこに戻ったのが、シラケ世代というものだった。そしていまの二十歳の青年たちは、べつに開き直りも、「埋没」するわけでもなく、その日常生活を研究する。この方がどう見ても賢くて健全ではないか。





### 交友館落成祝い

寄付金

(53年5月末現在)

ご支援を感謝して拝受いたしました

5,000円

津田塾大学二年藤村ゼミ殿

1,000円 立教大学博士課程

1,000円 谷村はるか殿

1,000円 三多摩燃料㈱

1,000円 社長 渡辺賢典殿

1,000円 多摩設計コンサル

1,000円 タント社長 鈴木 健殿

1,000円 文教大学女子短期大学

4,000円 学長 島田依史子殿

1,000円 文京女子短期大学

1,000円 栗田見瑞殿

1,000円 市川きもの学院

1,000円 院長 市川ひろ子殿

1,000円 総務部長 市川勝洋殿

1,000円 有限会社きぬや

1,000円 代表 伊藤 亨殿

1,000円 大導寺商店殿

1,000円 中央公論事業出版

5,000円 梅 醇殿

5,000円 代表取締役 久保三男殿

1,000円 両角動物病院

1,000円 両角 豊殿

1,000円 八王子ロータリークラブ殿

5,000円 八王子ロータリー

5,000円 クラブ会長 金田品二殿

5,000円 旧職員 豊島広司殿

5,000円 大八木捺糸工業㈱

2,000円 社長 大八木好雄殿

1,000円 ㈱仲野電機製作所

1,000円 社長 千野熊男殿

5,000円 村越造園 村越善男殿

3,000円 河西織維社長 河西達郎殿

3,000円 座間市立東中学校

1,000円 教諭 山口清隆殿

1,000円 成蹊大学教授 宇野重昭殿

1,000円 日本女子大学岡本ゼミ

1,000円 教授 岡本栄一殿

1,000円 関東電気工事㈱

1,000円 多摩支店長 高橋芳雄殿

1,000円 青山学院大学教授 羽田三郎殿

3,000円 旧職員 桐生富久殿

5,000円 学習院大学江沢ゼミ

5,000円 教授 江沢 洋殿

5,000円 弁護士 中利太郎殿

5,000円 中央大学教授 熊田洋一郎殿

5,000円 八王子大丸殿

5,000円 茶道師範 鮎川宗藤殿

3,000円 八王子市議会議員 石井栄治殿

5,000円 八王子市農業委員 石井竹松殿

3,000円 八王子市議会議員 石井栄治殿

3,000円 都議会議員 石渡照久殿

3,000円 下木町会長 伊藤仲治殿

5,000円 ㈱八光舎社長 上野 了殿

5,000円 不動産賃貸業 大貫 一殿

3,000円 豊徳開発㈱

3,000円 社長 加藤政利殿

3,000円 中山町会長 栗原清吉殿

5,000円 八八㈱社長 桑田又蔵殿

1,000円 東京都肥料卸商組合

3,000円 理事長 清水住良殿

3,000円 書道家 前畑千秀殿

5,000円 松月会茶道部 田中恵美子殿

3,000円 田所光子殿

3,000円 山栄興産㈱社長 杉山友一殿

3,000円 杉貞㈱社長 杉本精一殿

3,000円 旧職員 前田 寿殿

3,000円 鮎川師範門下生 二上むつ子殿

1,000円 旧職員 矢作政美殿

3,000円 旧職員 河田喬夫殿

3,000円 矢内社中殿

5,000円 野猿嶺自治会殿

4,000円 上智大学鈴木皇ゼミ一同殿

3,300円 飯田八千代殿

5,000円 京都大学教授 広中平祐殿

1,000円 早稲田大学教授 村田勝彦殿

1,000円 国際基督教大学

1,000円 教授 勝見允行殿

5,000円 創価大学教授 池田貞雄殿

1,000円 千人会員 丹下みさお殿

1,000円 慶応義塾大学殿

1,000円 順天堂大学付属医院殿

1,000円 早稲田大学殿

5,000円 学習院大学英文学科殿

### 寄付金報告

53年4~6月末現在

2,000円 武蔵野ワイズメンズクラブ殿

1,000円 文教大学女子短期大学部殿

高,000円 第98回大学共同セミナー指導教授

芳賀 徹殿

原 芳男殿

山岸 健殿

香原志勢殿

谷口汎邦殿

勝見允行殿

中鉢正美殿

第98回大学共同

セミナー参加学生一同殿

3,000円 青葉学園短期大学

吉田美穂子殿

2,000円 千人会員 松山正男殿

5,000円 千人会員 宮野三郎殿

△現物寄付△

紅梅一本 国際ロータリークラブ

第二五八地区第2回

青年リーダーゼミナー

参加者一同殿

庭園用三点セット 菅野 曉殿

応接三点セット(長椅子・テーブル各一)、テーブル大、冷蔵庫、ガスコンロ 館長 飯田宗一郎殿

置物幌馬車 大学ゼミナー

ハウス食堂社長 酢屋善元殿

花瓶(陶製)サンエス

クリナー 関口 実殿

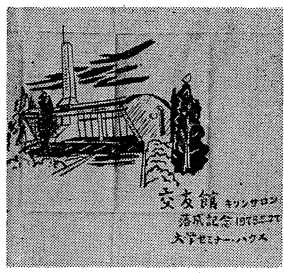
皿(パールシルバー)

芝浦工業大学教授

十代田知三殿

△植樹基金△

市光工業グループ御三家会殿



交友館落成記念品のあきん (図案は多摩大4年森下展行君)

▼記録映画プロジェクト・チーム生まれる

若手職員を技術の担当者に荒井良雄学習院大学教授をよき助言者として

記録映画作りは、開館以来、ハウスの懸案事項であった。創立以来の数々の記録用の写真はよく保存されている。大事な式典や行事には必ずシャツターが切られ、ファイルされたネガによって、思いついたことは可能である。しかしながら、動くフィルム撮影は開館十周年をもってしても実現しなかった。ここに至り、今年度は交友館と国際セミナー館という新しい二つの建物が落成する年であり、また大学共同セミナーも回を重ねて第一〇〇回を迎えるという記念すべき年となる。いわば当セミナー・ハウスが回顧と展望の分水嶺に立つ年である。

こうして記録映画作りは今年度の事業計画に取上げられた。写真に興味と多少の自信を持つ天野、水島両君の若い職員を加えることよって、企画室の中にプロジェクト・チームを発足させることになった。幸い、かねてより記録映画をもって当ハウスの理念と現実を鮮明にせよと提案されていた荒井良雄学習院大学教授がアドバイザーとして撮影技術や編集等の面でご指導下さることになり、さっそく4月20日の第一回会合をもって、具体的な活動を開始した。当夜は発会式の晩さんを囲み、映画作りの目的・方針を確認し、機種の選定を行い、5月13日には購入した映写機で荒井教授が持参して

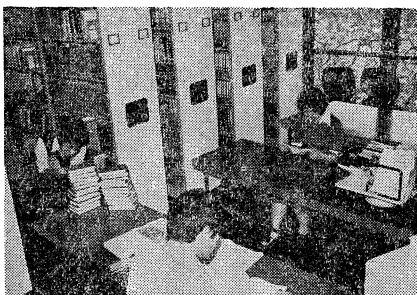
下さったフィルムを鑑賞。5月27日の交友館落成式から撮影を開始した。なお、荒井教授は、ご自身で世界の名作や貴重なフィルムを数多く収集されておられ、新しい交友館サロンの活動の一環として、一泊の映画セミナーを企画して下さることになった。秋には第一回が実現の見込みである。当セミナー・ハウスの生活が日常性に近づいたあかしであろう。

▼図書館に

手動式移動書架を新設 蔵書の増加に対応して

小さな図書館ではあるが、心を寄せて下さる先生方のお蔭で著書や新刊書の寄贈が多く、これまでの書架ではそろそろ限界にきていた。かといってそのまま増設したのでは、館内の閲覧スペースは犠牲にしなければならぬ。

この1月に「現代の社会主義」のテーマの下に共同セミナーをご指導下さった大内力東大教授は、



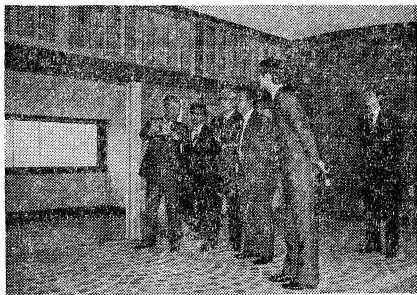
新設の移動書架

セミナーの期間中に図書館をのぞかれ、「移動式が便利ですよ」と助言して下さった。昭和53年度の予算に首尾よく工事が組み入れられて、3月17日に写真のように5レーンが取付けられた。9レーンまで可能なので、蔵書の増加を見ながら徐々に増設していく予定である。

▼交友館の運営を考える会

昭和53年4月9日(日) 14時30分〜17時

当ハウス開館十三年目にして、キャンパスの中に「一息つけるような、くつろぎの場」が出現することとなったわけだが、失敗すると世俗化して、これまでの品位を落とすことにもなりかねない。日頃、ゼミ合宿をされたり、共同ゼミナリ等のプログラムに参画し下されている、いわば大学セミナー・ハウスの教授の方々を、桜の咲き乱れる春の丘にお招きし、当ハウスのサロンはどうあるべきか、についてご意見を伺う機会を



麒麟交酒社社長佐藤保三郎氏(中央)の視察(4月26日)

●寄贈図書

昭和53年2〜3月

- 採集と飼育 2〜3月号 日本科学協会 小山弘志殿
[謡曲・狂言] Asian Culture No. 18 ユネスコ・アジア文化センター殿
[大学における専門教育] 広島大学大学教育センター殿
[日本におけるロック音楽] 国際交流 No. 16 国際交流基金殿
[町田の歴史をさぐる] 町田市役所殿 齋藤鎮男殿
[国際連合論序説] 現象学 新田義弘殿
[東洋文庫] 第七四〜三二三 平凡社殿
[市民の大学] 井門富二夫殿
[高学歴社会の大学] 天野郁夫殿
[会報] No. 34 大学基準協会殿
[政治権力] 上・下 有賀 弘殿
[逸遊雑記] 山内恭彦殿

計画した。館長の呼びかけに応じてご出席下さった先生方は次の方々である。大西清氏(武蔵工大)、岡田純一氏(早大)、鈴木皇氏(上智大)、友部直氏(共立女大)、岡本智大氏(日本女子大)、山岸健氏(慶応大)、高野雄一氏(上智大)
内装工事もほぼ完成に近づいた交友館を見学してから、教師館サロンの場所を移し、交友館サロンが、提供したらよいと思われるサービスマン活動、その環境作り、使用すべき食器類、飲料

- 「日常生活の社会学」 山岸 健殿
「一化学者の回想」 玉虫文一殿
「金融経済」一六七 金融経済研究所殿
「工学院大学研究論叢」第14〜15 工学院大学図書館殿
「立教」No. 84 立教大学殿
「量子物理学の展望」下 江沢 洋殿
「昭和50年度逐次刊行物目録」 国立国会図書館殿
「村田大造著作集」第一〜三巻 佐藤岩子殿
「若い力」3月号 青年海外協力隊殿
「現代キリスト教神学入門」 布施瀧雄殿
「英国の風土と文化」 齋藤国治殿
「太平洋戦争―軍艦生活日記―」 由木村はつが故郷
「わたん記全国グループ殿
「国家独占資本主義」 「現代の中国」 「現代日本経済論」 「日本経済論」 上・下、「経済学概論」 大内 力殿

の種類と値段等について、種々意見を交換した。夢はふくらむばかり、たのしい会合であった。その会議の光景の中に、早くもサロンのあり方があった。

▼丘といも畑

敷地の中の空地を利用してもうひとつ手づくりの名物をつくる

いも畑をつくることは永年の懸案であった、特にセミナーの丘に秋が訪れ、落葉が日増しに多くなるとその感を深くする。落葉を集め、秋の日射しの中で

●館長日記から

交友館キリン・サロンは大好評である。セミナー・ハウスの日常生活が一段と充実したらしい。私にとっても会心の作品である。日に数回、このサロンに足を運ぶのが私の日課となつた。利用者の教授と学生をもつたために、独り休息を楽しまつたために。◆このサロンは矩形の広間である。気がついたら「最後の晚餐」の壁画がある。ミラノの僧院の食堂も矩形である。交友館は訪れる者に快く映る建物である。木製の椅子、テーブルの上にそそぐ光は明るい。素晴らしいのしい交歓の広間である。壁画の示す深遠な真理はないが、広いガラスを通して見る多摩の自然と芝生の前庭は、身内のように温かい。◆交友館キリン・サロンが誕生するに至つた経緯については、ニュース51号で一部を披露したが、本号は交友館落成記念号なので、信頼と親愛のライフ・ヒストリーをお二人のお許しを仰いで、深い尊敬の気持を披露させていただきます。二通の私信を披露することにしました。さもないと麒麟麦酒の寄付金が、いかに good thing であつたかの証しが不明になつてしまふからである。

は、そのまま納得が行くところに尊台の「えらさ」というか「尊さ」があると感じました。ほんとうにうれいことでした。御無沙汰御詫びをかたてて十周年の御祝いもさせて頂きました。◆このような書簡に接し、心ひそかにたよりにしていた私は、開館十周年記念募金が不況の中で難航していたとき、三菱総合研究所の社長室に中島正樹氏を訪問した。中島社長の親切な配慮から麒麟麦酒社長佐藤保三郎氏と私の間が生まれた。初対面の二人の間は、人を見ること」が事業を「知ること」につながる出会いをつくつた。

昭和53年4月10日 佐藤保三郎 拜啓 桜の時節と相成りました。新しい学期でもありますので、何かとご多忙の事と存じます。又キリン・サロンも着々と完成に近づきつつある由にて大変楽しみです。とができれば私共も喜ばしい事と期待している次第です。先生にも一層ご自愛下されご活躍を祈ります。

◆6月23日の夕食の食堂は二七〇名の教師と学生で超満員。この盛況は開館以来の記録である。これこそ The Seminar House の光景である。

◆この10月、共同セミナー第一〇〇回を迎える。その準備のため6月30日、板垣興一、渡辺格、佐伯彰一など六教授と会食し快談する。叶うの感深い。

昭和50年4月1日 中島正樹 陽春の好時節となりました。益御健勝何よりと存じ上げます。擬て本日の読売新聞「人間登場」欄に貴台についての紹介兼礼讃の辞を見まして、まことにうれしく存じました。その様に賞められるケースは少く、しかも尊台の場合

在泊の学生が焼いも楽しむことは想像するだけでも楽しい。そんな光景を想い浮かべると、今年はどうしてもいも畑をつくらなければならぬ。5月、職員の中から有志が集まり、さっそくセミナーの裏の空地に鉄を入れた。雑草の中につくしがいつばい芽を出している空地も一週間とたたない内に、すばらしいうねがでできた。約六〇坪もあるうか。苗を植えた翌日、慈雨があつたことも幸先のよいも畑である。昨今もうすつかり根付き、勢いのよい生育ぶりである。ただ困るのは雑草もまた勢いよくはびこり出したことである。職員は暇を見

ては雑草取りに精を出しているが、秋のみのりを思うと汗もまた楽しみの一つだ。セミナーの丘に秋風が吹き、紅葉が始まれば、また楽しい行事が一つ増える。それはいも掘り大会だ。千人会員のお子さん達をお招きすることも考えている。ゼミの学生達が、揃っていも掘りに参加されることも考えている。その日を目当てにご利用いただけるよう大会の予定日をあらかじめ電話でお問い合わせ下さい。フロントでは楽しみにお待ちしています。この構想は事業部の北沢長老の発案によることをつけ加えたい。

東京大学助教 虫明 功臣  
東京薬科大学教授 志田 信男  
上智大学カトリック学生の会 成蹊大学教授 広野 良吉  
東京学芸大学教授 角尾 稔  
早稲田大学教授 深沢 実  
神奈川大学助教\* 堀野 定雄  
中央大学助教 村山 元英  
東海大学教授 師岡 孝次  
早稲田大学教授 寄本 勝美  
東海大学医学部新入生研修 東京都立大学理学部新入生オリエンテーション

東京理科大学助教 増田 勇三  
日本女子大学社会学部新入生 オリエンテーション 金子 六郎  
専修大学教授 萩原 稔  
東京大学助教 菅野 暁  
東京大学助教 森田 桐郎  
日本大学教授 北野 弘久  
武蔵大学教授 今井 淳  
工学院大学助教 今井 義夫  
桜美林大学教職員組合 独協大学助教 宮川 淑  
明治大短期大学教授 桜井 一郎  
明光大学助教 篠原 睦治  
都留文科大講師 山本 安夫  
福島大学助教 星野 珉二  
流通経済大学硬式野球部 玉川大学教授 若槻 泰雄  
東京都立商科短期大学商学部 新入生オリエンテーション  
東京都立商科短期大学経営学科 新入生オリエンテーション  
経済地理学研究会 地域構造研究会 国際ロータリー第258地区青少年リ

1ダー・セミナー 東京八王子西ロータリークラブ青年セミナー 東京カウンセリング・セミナー

早稲田大学教授 高柳 暁  
中央大学教授 設楽 正雄  
明治大学教授 秋山 智久  
明治学院大学助教 秋山 智久  
芝浦工業大学教授 十代田知三  
テニション

東京大学教養学部新入生オリエンテーション

東海大学医療技術短期大学新入生オリエンテーション

東京医科大学新入生オリエンテーション

早稲田大学助教 嶋 武彦

東京外国語大講師 日限 真澄

横浜国立大教授 佐藤 精一

中央大学教授 小川浩八郎

中央大学教授 伊藤 敬一

中央大学教授 池上 一志

東京大学助教 見田 宗介

日本大学教授 鈴木 喬

東京大学助教 鈴木 喬

●利用状況

\* 同月2回利用

4月11日、〇四六人  
5月11日、五八一人

Table with 4 columns: Date, Name, Title, Affiliation. Lists seminar participants and their respective institutions.

- 日本赤十字社  
トミー植松語学センター  
多摩東ナショナル販売  
山野楽器店  
川鉄物産  
市光工業  
ソフトウェアマネジメント
- 【個人利用】  
実践女子大学講師\* 河上 正秀  
工学院大学助教授 今井 義夫  
法政大学助教授 伊藤 玄三  
関西地区大学セミナー・ハウス
- 国立音楽大学教授  
【日帰り利用】  
野猿峠自治会  
堅香子の会  
高千穂商科大学  
工学院大学専門学校
- 5月  
武蔵大学教授 横山 定雄  
東京都立大学教授 矢野 茂樹  
東京農工大学助教授 大貫佐一郎  
津田塾大学講師 梶田 孝道  
立教大学助教授 荒木 伸治  
東京薬科大学教授 志田 信男
- 立教大学BSA  
中央大学教授 島崎 晴哉  
東京大学講師 高辻 知義  
立教大学講師 小林 晃  
東京学芸大学理科教育科新入生  
オリエンテーション\*
- 学習院大学教授 児玉 久雄  
駒沢大学助教授 桑原 洋  
中央大学教授 石原 忠男  
東京経済大学教授 富塚文太郎  
東京大学教授 大島 信徳  
中央大学教授 村田 稔  
立教大学教授 高橋 昭三  
東京工業大学教授 松田 武彦  
駒沢大学教授 大久保治男  
慶応義塾大学教授 小茂島和生  
東京都立大学物理学科新入生オリエンテーション
- 駒沢大学講師\* 谷敷 正光  
中央大学助教授\* 石崎 忠司  
中央大学学生部学生相談室  
芝浦工業大学教授 高橋 清  
東洋大学助教授 星野 靖雄  
学習院大学教授 宇佐美邦雄  
立教大学助教授 三戸 公  
法政大学助教授 松崎 義  
文教大学女子短期大学部新入生オリエンテーション
- リエンテーション  
日本女子大学家政経済学科新入生  
オリエンテーション  
明治学院大学教授 竹内 真一  
明治学院大学助教授 下森 定  
法政大学助教授 藤村 瞬一  
津田塾大学助教授 須賀 庸夫  
明治学院大学青い山子供会 浅野 克己  
工学院大学助教授 波多江健郎  
慶応義塾大学教授 村井 実  
一橋大学助教授 良知 力  
青山学院大学聖歌隊  
日本女子大学教授 岡本 栄一  
上智大学助教授 鈴木 皇  
学習院大学助教授 江沢 洋  
一橋大学助教授 竹内 啓一  
上智大学助教授 吉田 甫  
神奈川大学教授\* 小林 浩  
立教大学助教授 水本 昭吉  
津田塾大学講師 星野 昭吉  
早稲田大学助教授 常田 稔  
東京学芸大学教授 安良岡康作  
産業能率短期大学助教授 村主 義江  
東京都立商科短期大学商学部新入生オリエンテーション\*
- 東京都立立川短期大学新入生オリエンテーション  
エンターション  
職業訓練大学校新入生オリエンテーション  
都立工科短期大学新入生オリエンテーション  
横濱YMCA学院  
明治大学短期大教授 岡山 礼子  
立正大学教授 杉澤 新一  
文京女子短期大学新入生オリエンテーション  
日本獣医畜産大教授 吉田 六順  
白百合学園高等学校  
ICYEユニオン  
第98回大学共同セミナー  
計測自動制御学会  
国立武蔵療養所附属看護学校  
久遠キリスト教会  
東京ヴォランティア・コワイヤ  
アイ移転サービスシステム  
ソフトラブエアマナジメント  
ソフトラブエアマナジメント  
太平洋放送協会  
八王子福祉団
- 【個人利用】  
埼玉県武蔵中学校 南出 新治  
産業能率短期大学学生 森 秀雄
- 東京ガス不動産\* 米山 哲夫  
文学教育研究者集団 夏目 武子  
国立音楽大学教授 熊谷 孝  
早稲田大学教授 村田 勝彦  
【日帰り利用】  
宝泉  
八王子ロータリークラブ  
工学院大学華道部 若松 隆  
中央大学助教授

編集後記

本号は交友館落成記念の特集号とした。ご欠席の方々にも紙上でお祝いの席に連なっていただけのように、できるだけその場の雰囲気をお伝えするようにとめたつもりである。楽しくお読みいただければ幸である。

ただ、欲を出して記事を多くしたため、従来の一段37行を42行で編集せざるを得なかった。なお、事業部だよりは次号でまとめて掲載する予定である。

- シヨールペンハウアー全集 全14巻・別巻1  
揃価二二、六〇〇円
- キルケゴール著作集 全21巻・別巻1  
揃価三五、三〇〇円
- ジンメル著作集 全12巻(既刊11冊)  
価一、五〇〇円〜二、五〇〇円
- シエラー著作集 全15巻(既刊11冊)  
価一、八〇〇円〜二、八〇〇円
- オルテガ著作集 全8巻  
揃価一四、八〇〇円

- デカルト著作集 全4巻  
揃価一五、三〇〇円
- ベルグソン全集 全9巻  
揃価一六、三〇〇円
- バクーニン著作集 全6巻  
揃価八、五〇〇円
- テイリツヒ著作集 全10巻・別巻3(既刊5冊)  
価二、三〇〇円〜二、九〇〇円
- ベルジャーエフ著作集 全8巻  
揃価一九、六〇〇円

白水社

東京神田小川町3-24/振東9-33228